

東京都立東大和南高等学校 令和7年度 教科 国語 科目 論理国語

教科： 国語 科目： 論理国語 単位数： 3 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組（文系）

教科担当者：（1・3・5組：山崎）（2・7組：飯田）（4・6組：田村）

使用教科書：（論理国語（筑摩書房））

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】 論理的な文章に用いられる語句の意味や漢字の読み書きについて知識を定着させ、多様な話題や筆者に出会い、その論理や世界観に触れて読解力を高め、難関大受験に備える。
- 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の考え方を正しく読み取り、的確にまとめる力を養い、難関大受験問題に対応できる応用力を身につけると同時に、提示された問題について考え、意見を交換する活動を通じて、自己の思考を発展させ視野を広げる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 多様な文章の読解や対話的な学習を通じて、他者の思考と主体的に向き合い、生涯にわたり持続する学びと文化的素養の基盤を築く。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
論理的な文章についての語句の意味や漢字の読み書きについて知識を定着させ、読解の基礎を固める。多様な文章の読解を通じて、様々な話題や論理の展開、多様な筆者それぞれの視点や世界観に触れ、論理的な文章の特質と読み解き方を習得する。	多様な文章を読解し、論旨を正しく読み取る力を養う。それぞれの筆者の特徴的な表現や思考の枠組みに沿って、様々な文章を読み解き、解釈する力を養う。また、生徒同士の意見交換を通じて、それぞれの文章を多角的に考察し、学びを発展させていく。	多様な文章の読解や対話的な学習に主体的に取り組み、筆者の、またともに学習する仲間の思考と向き合い、思考の経験を積むことによって、持続する学びの基盤を築く。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	配当 時数
1 学 期	単元：社会とコミュニケーション コミュニケーションのあり方、食い違い、社会的影響など、社会的コミュニケーションに対する捉え方を素材とした3つの教材を用いて、読解力の向上・話し合いによる思考の発展を目指す。特に、2学年で文学国語を学習している学年であるため、論理的文章の読解法の基礎を改めて確認する。	教材：沖縄戦を聞く（岸政彦） 日本の社会は農業社会か（網野義彦）ポピュリズムとは何か（森本あんり） 学習活動：基本的な読解・漢字や語句の確認のあと、設定された問題についてグループワークを通じて解決していく。各グループの意見を発表し、質疑応答を行い、論理的整合性、作品ごとの論理の展開を正しく把握する。また、文章の主題について意見を交わし合う。	【知識・技能】 ・漢字の読み書き、語句の意味、筆者独自の語法について理解し、知識として定着させている。 ・論理的な文章を正しく読み取り、的確にまとめる基本的な読解力をもつ。 【思考・判断・表現】 ・各教材本文の内容や構成、展開を、論理に沿って的確に捉えている。 ・学級内で発表を行い意見を出しあう中で、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、批判的に検討する。 ・難関大レベルの文章について、論理的に理解し意見を持つ。 ・教材に対し自身に惹きつけて考え、発展的な考えを持つ。	18
	単元：さまざまな世界の捉え方 「環世界」という独自の世界観で生物の環境に新しい視点を与えたエクスキュル、客観世界の存在を見直す契機を与える「歴史物語論」、独特の論理展開を持つ大森の経験主義の3つの世界観を読み取り、比較検討する中で、自己を取り巻く世界に対する視野を切り開く。	教材：生物の作る環境（日高敏隆）物語と歴史のあいだ（野家啓一）真実の百面相（大森荘蔵） 日本の社会は農業社会か（網野義彦）ポピュリズムとは何か（森本あんり） 学習活動：論理的文章によく見られる筆者独自の語法について読み取り、考える。やや難解な哲学的世界観を、グループワークを通じて正しく読み取る。発表・質疑応答を通して、各自の読みを振り返り、また、提示された世界観について意見を持つ。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・主体的に文章読解に取り組んでいる。 ・グループやクラスでの発表・質疑応答に積極的に参加している。 ・教材に主体的に向き合い、自己の考えを確立しようとしている。	20
	定期考査			2

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	配当 時数
2 学期	単元：言葉と思考による自己の確立 言語とそれによる他者との関わりから生まれる人間独自の文化について 考察させる3つの教材を用いて、人間とその構成する社会におけることばとは、また生徒各自にとってのことばとは何かを考察させる。	教材：物語するという欲望（内田樹）ことばへの問い（熊野澄彦） 思考の誕生（蓮実重彦） 学習活動：1学期の読解学習をふまえて、各自が論理的に正しく本文を読み取り、意見を交わし合う。互いの読みを交わし合うことによって、本文の論旨に対する読みを深める。また、3つの本文を比較検討し、より発展的な言葉に関する考察を行う。	【知識・技能】 ・漢字の読み書き、語句の意味、筆者独自の語法について理解し、知識として定着させている。 ・論理的な文章を正しく読み取り、的確にまとめる基本的な読解力をもつ。 【思考・判断・表現】 ・各教材本文の内容や構成、展開を、論理に沿って的確に捉えている。 ・学級内で発表を行い意見を出しあう中で、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、批判的に検討する。 ・難関大レベルの文章について、論理的に理解し意見を持つ。 ・教材に対し自身に惹きつけて考え、発展的な考えを持つ。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・主体的に文章読解に取り組んでいる。 ・グループやクラスでの発表・質疑応答に積極的に参加している。 ・教材に主体的に向き合い、自己の考えを確立しようとしている。	20
	単元：近代民主主義を扱った2つの教材を読解し、それぞれの筆者の主張を正しく理解する。また、両者を比較検討し、自らの置かれた社会の状況について考察して意見を交わし合う。	教材：僕らの民主主義なんだぜ（高橋源一郎）であることとすること（丸山真男） 学習活動：各自が論理的に正しく本文を読み取り、意見を交わし合う。互いの読みを交わし合うことによって、本文の論旨に対する読みを深める。それぞれの筆者が近代民主主義をどのように捉えているかを比較し、生徒各自が自らを取り巻く社会について考察する。		22
	定期考査			2

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	配当 時数
3 学期	単元：教科書本文の読解によって培った思考力・判断力を用いて、応用力を鍛える。副教材プログレスおよび難関大学過去問等を用いて、多様な方向性を持つ論理的な文章を読み解き、問題を解決すると同時に、考察を深める。	教材：プログレス現代文、各種難関大学過去問 学習活動：問題を解く各自の活動と、対話を通じて意見を交わし合い互いの読みを深める活動を組み合わせ、問題に対する対応力・応用力を高める。	【知識・技能】 問題演習の中で、漢字や語句の定着度を確認しつつ、即応力を身につける。 【思考・判断・表現】 問題本文の内容や構成、展開を、論旨に従って的確に捉えている。 また、問題本文の論旨について、自己の読解を他者と交換し合うことができる。 答え合わせを行い、自己の思考プロセスを確認する。 本文の論旨について、自分の意見を持つ。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題演習に主体的に取り組み、自己点検や改善に努めている。 対話的活動を通じて、問題文について多様な視点から考察し、読解の経験として蓄積している。	20
	定期考査			1
				合計 105